

東京国立近代美術館は、2007年8月18日[土] - 10月21日[日]の会期で、当館コレクションをもちいた小企画展示「崩壊感覚」展を開催いたしますので、お知らせいたします。

The Sense of Collapse



崩壊感覚

東京国立近代美術館 ギャラリー4

2007年8月18日[土] - 10月21日[日]

プレス用イメージ・取材、展覧会内容など報道関係のお問合せ先
ギャラリー4 担当係

TEL: 03-3214-2561 / FAX: 03-3214-2576

e-mail: pr-f@momat.go.jp

〒102-8322 東京都千代田区北の丸公園 3-1

タイトル	崩壊感覚
会期	2007年8月18日[土] - 10月21日[日]
開館時間	午前10時から午後5時まで 金曜日は午後8時まで(入館はそれぞれ閉館30分前まで)
休館日	月曜日(ただし9月17日、24日、10月8日は開館)、9月25日[火]は休館します
主催	東京国立近代美術館
会場	東京国立近代美術館 ギャラリー4(2F) 〒102-8322 東京都千代田区北の丸公園3-1
アクセス	東京メトロ東西線竹橋駅1b出口 徒歩3分
観覧料	一般 420(210)円、大学生 130(70)円、高校生 70(40)円 中学生以下、65歳以上、障害者手帳をお持ちの方および付添者1名までは無料。 ()内は20名以上の団体料金。いずれも消費税込 *本展の観覧料で、当日に限り、所蔵作品展「近代日本の美術」もご覧いただくことができます
無料観覧日	9月2日[日]、10月7日[日](「崩壊感覚」展および所蔵作品展「近代日本の美術」のみ)
お問合せ	03-5777-8600(ハローダイヤル) http://www.momat.go.jp (ホームページ)
イベント	キュレーター・トーク(鈴木勝雄 本展企画者・主任研究員) 8月26日[日] 11:00~ / 10月5日[金] 18:00~ 申込不要・参加無料(要観覧料)
同時開催	「平山郁夫 祈りの旅路」展 2007年9月4日[火] - 10月21日[日] 企画展ギャラリー(1F) 観覧料: 一般 1300(1100 / 900)円、大学生 900(800 / 600)円 高校生 500(400 / 350)円、小・中学生無料 ()内は前売 / 20名以上の団体料金の順。いずれも消費税込 *「平山郁夫展」観覧券で当日に限り、「崩壊感覚」展および所蔵作品展「近代日本の美術」をご覧いただけます 所蔵作品展「近代日本の美術」 2007年8月18日[土] - 10月21日[日] 所蔵品ギャラリー(4F - 2F) 観覧料: 一般 420(210)円、大学生 130(70)円、高校生 70(40)円 中学生以下、65歳以上、障害者手帳をお持ちの方および付添者1名までは無料。 ()内は20名以上の団体料金。いずれも消費税込

展覧会の構成とみどころ

観る者の郷愁を誘う古代遺跡、戦争や災害による破局の光景、時間の経過とともに風化し、朽ちていく物質の姿、そして自己の境界が溶け出すような感覚に怯える人間の有り様。これら「崩壊するもの」のイメージは、20世紀以降の美術の底に絶えず流れていたといえます。

言うまでもなく、その背景には「戦争の世紀」と呼ばれる20世紀に、人類が引き起した幾多の災厄があります。その夥しい瓦礫の山は、もはや失われた過去を夢想させるロマンチックな「廃墟」ではありえません。それはトラウマのように常に現在形で私たちの生を呪縛してくるのです。また80年代、バブル経済の繁栄に酔いしれていた日本に起こった「廃墟ブーム」もこの文脈で考察すべき現象でしょう。大規模な再開発によって次々と古い建物が解体されていったこの時期、都市に出現した束の間の建築の死が、世紀末の終末的ヴィジョンと重ね合わせられて、妖しい魅力を放っていました。

これだけの例をみても、いかに「崩壊するもの」のイメージが時代や社会と密接に関連していたかがわかるでしょう。この展覧会では、約20名の作家による様々な「崩壊感覚」を集め、それらの多様な意味の広がり、過去・現在・未来の時間の相と照らし合わせながら検討していきます。



解体する世界像

「戦争の世紀」20世紀を覆う不穏な空気の中で、時代の変化を鋭敏に察する美術家は、人間を中心とする統一された世界像が瓦解したことを見抜いていました。「破壊」や「断片」のイメージがむしろリアリティーを獲得するのです。

【図版：恩地孝四郎(アレゴリーNo.2 廃墟) 1948年 木版(多色) (寄託作品)】

有機物と無機物の相克

石造りの建築が長い年月を経て風化した廃墟と異なり、日常眼にすることのできる些細なものが崩れていく過程。そこに必ずしもはかなさの美を読み取る必要はないでしょう。むしろ有機物と無機物との果てしのない攻防に注目。

【図版：斎藤さだむ(草(木) 1988-97年 タイプC プリント)】

溶けだす自己

私たちに襲う「自分がなくなってしまう」という感覚。それは、死に対する意識のみならず、他者との関係において成り立つ「自己」の境界の曖昧さをも示しているのでしょう。

【図版：駒井哲郎(銅版画集 Composition de la Nuit より 崩壊感覚) 1969年 銅版】

記憶装置としての建築

打ち棄てられた建築の壁や床に染み込んだ、かつての住人の気配。瀕死の建築の荒れ果てた室内は、生々しい人間の情念が依然としてそこに息づいていることを気づかせてくれます。

【図版：石内都(「連夜の街」より 飛田新地) 1978-80年 ゼラチン・シルバー・プリント】

カタストロフィとの遭遇

関東大震災と阪神大震災。天変地異による近代都市の崩壊を目の当たりにした表現者がとった行動は、日本画家池田遥邨のデッサンと宮本隆司の写真を比較。

【図版 (表紙)：宮本隆司(「神戸 1995」より 神戸市中央区 住友ゴム神戸工場) 1995年 ゼラチン・シルバー・プリント】

FAX 送信票

2007 年 月 日

To: 東京国立近代美術館 美術課 ギャラリー4 担当係行 (FAX: 03-3214-2576)

広報用写真借用申込書

崩壊感覚

2007 年 8 月 18 日(土) ~ 10 月 21 日(日)

東京国立近代美術館

貴社名 御依頼者氏名

御住所 〒

TEL: (内線) FAX:

e-mail:

出版物・放送番組名(含:扱い、コーナー名等)

種別:(印をつけてください) TV ラジオ 雑誌 新聞 フリーペーパー ネット媒体 携帯媒体 その他

発行・放送予定日: 年 月 日 時 分 ~ 時 分

下記の条件をよくお読みの上、表の空欄に 印をお付けください。

画像データ(JPEG)にてお貸出いたします。その際、一緒にお送りするキャプションを必ずご確認ください。掲載前に、校正紙をお送りください。お送りいただけない場合、掲載内容についての責任は当方では負いかねます。

	恩地孝四郎 (アレゴリーNo.2 廃墟) 1948 年 東京国立近代美術館 寄託作品
	斎藤さだむ (草(木)) 1988-97 年 東京国立近代美術館蔵
	駒井哲郎 (銅版画集 Composition de la Nuit より 崩壊感覚) 1969 年 東京国立近代美術館蔵
	石内都 (「連夜の街」より 飛田新地) 1978-80 年 東京国立近代美術館蔵
	宮本隆司 (「神戸 1995」より 神戸市中央区 住友ゴム神戸工場) 1995 年 東京国立近代美術館蔵

<プレス・イメージ貸出条件>

1. 写真は、展覧会および美術館紹介の目的にのみご使用ください。使用後、画像データは消去してください。
2. 展覧会の名称、期間、会場は、適切な場所、大きさを明示していただくようお願いいたします。
3. 写真を掲載される際には、イメージ貸出時に添付するクレジットをご記載ください。
4. データを第三者に渡すことは禁じます。
5. 掲載紙(誌)は、1冊、美術課宛にご寄贈下さい。web サイトの場合は、掲載時にお知らせ下さい。